

Ueda

上田市民と行政をつなぐ、お役立ち情報紙

広報うえだ

3月号

2020 (令和2年)

No.325

特集 スポーツ の 魅力

平日の夜間や休日に手続きができます
「臨時窓口」を開設します 6

工事に伴い駐車場の一部が利用できなくなります
新本庁舎建設工事に関するお知らせ 7

歴史の目撃者になろう!
東京2020オリンピック聖火リレー 8

咲き誇る桜がお出迎え
第17回上田城千本桜まつり 38

特集 スポーツの魅力

みる
する
ささえる・つなぐ

昨年はラグビーワールドカップで日本中が盛り上がりましたが、今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。県内に目を向けても、上田市を拠点とする女子バレーボールチーム「ルートインホテルズブリリアントアリーズ」が今シーズンから国内トップリーグのVリーグに参戦し、また令和9年度の国民体育大会(国体)・全国障害者スポーツ大会(全障スポ)の長野県開催が決定するなど大きなニュースが続いています。皆さんがスポーツを身近に感じる機会がたくさんあると思います。

ところで、皆さんは上田市のスポーツ振興の理念や目標を定めた「上田市スポーツ振興計画」をご存じでしょうか。市では、平成23年度から令和2年度までの10年を期間としたこの計画に沿って「だれもがいつまでもスポーツに親しむことができるまちづくり」を目指し、スポーツの振興に取り組んでいます。

計画では、「競技力の向上」、「生涯スポーツの振興」、「スポーツにかかわる人材育成とスポーツをささえる地域づくり」、「スポーツ施設の整備」の4つを基本目標としています。今回の特集では、これらの基本目標に、スポーツを「みる」「する」「ささえる」「つなぐ」という4つの視点からアプローチし、市内でのスポーツの盛り上がり、スポーツの魅力に迫ります。

▶みる

ブリリアントアリーズ

V2デビューシーズンは

第4位



2017年4月に上田市を拠点に創部。2019-20シーズンからVリーグディビジョン2(V2)に参戦し、一番上のカテゴリーであるディビジョン1(V1)への昇格を目指す。自然運動公園総合体育館をメインにホームゲームが開催されるため、トッププレーヤーたちによるハイレベルな試合をこの上田で見ることができる。



インタビュー

上田市出身



Vリーグの世界では決して身長が高くはないが、ジャンプ力と速さを活かした攻撃を持ち味に、今シーズンを戦い抜いた平原選手にお話を伺いました。

「今シーズンを振り返って」

開幕戦はホームゲームでもあったので、たくさんのお客さんの中で試合ができる楽しみも大きかったのですが、勝たなくてはいけないという気持ちでチーム全員にあったと思います。初めてのリーグという緊張もあって、硬さが出てしまいました。

初勝利の時は、全員バレーで勝った試合だったので、みんなで勝つというのはいかに楽しかったのかなと

平原 果歩選手

- 背番号/11 ●コートネーム/カホ
- 身長/170cm
- ポジション/アウトサイドヒッター
- 年齢/23歳
- 出身校/豊殿小(上野が丘スポーツ少年団)→五中→上田西高校→長野大学

一人が感じた試合だったと思います。試合を重ねるごとに、自分たちのプレーを発揮できてきましたが、V1に上がるという目標を達成できなかったことは自分たちの力不足だったと思っています。

「サポーターの存在」

自分たちも圧倒されるくらい本当に大勢の方が応援に来てくれてとてもうれしかったですし、力になりました。ホームゲームでの勝利が少なかったのに、来シーズンは全部勝てるように頑張ります。



「来シーズンへの意気込み」

目標はV1に上がること。まずは、その入れ替え戦に進むために、チームとしてもたくさん課題が見つかったので、練習を積み重ねてリベンジしたいです。個人としても、もっとバレーボールが楽しいと思うてもらえるような試合をお届けできるように頑張りますので、これからも応援をよろしくお願ひします。

「スポーツを頑張る子どもたちへ」

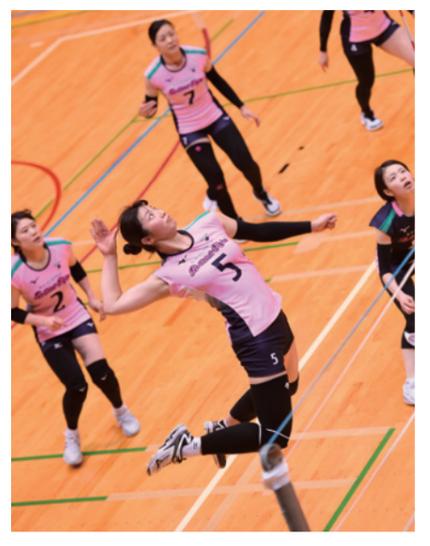
私には中学生の時からバレーボール選手になりたいという想いがありましたが、スポーツは楽しむことが一番大切ですが、練習では苦しいこともないと上手になれません。諦めずにチャレンジし続けると思い描く自分に近づけます。私もあんなお姉さんたちみたいになりたいと思うてもいいように頑張ります。

2019年11月9日。自然運動公園総合体育館は熱気に包まれていた。この日はブリリアントアリーズのV2開幕戦。ホーム初戦ということもあり、彼女たちの雄姿を見ようと1500人もの観客が集まったのだ。ここから、3か月にわたる8チームによる3回戦総当たりのリーグ戦が始まった。

初戦の相手は、昨シーズンV2で2位となったJAぎふリオレーナ。初めて経験するVリーグの舞台で硬さも見られ、1セットを奪ったものの1対3で敗れ黒星スタート。

開幕を2連敗で終えたブリリアントアリーズだったが、翌週には初勝利を挙げ、ここから彼女たちの反撃が始まる。リーグ第3週からは破竹の5連勝。その後も勝ち星を重ね、総当たりの2回戦を終えた段階で2位に順位を上げた。

V1昇格のためには負けられない戦いが続く3



回戦だったが黒星が先行し、迎えたリーグ最終戦。相手は勝ち星を並ぶGSS東京サンビームズ。勝利すればV1チームとの入れ替え戦に進める2位となる可能性も残っていたが、フルセットの激闘の末、悔しい敗戦となった。

最終的に、11勝10敗31ポイントで2位とは1勝の差で4位という成績で彼女たちのV2デビューシーズンは幕を閉じた。個人賞では、キャプテンの高橋愛未選手(背番号5、コートネーム/ナナ)が最優秀新人賞とサーブ賞に輝いた。

惜しくも、V1昇格への挑戦は来シーズン以降へ持ち越しとなったが、最後まで昇格争いを続け、確かな力を見せてくれた彼女たちのさらなる飛躍から目が離せない。

間近で見られる迫力あるプレーや、会場が一体となって盛り上がる応援、試合後の選手との交流。上田にまた一つ、スポーツを「みる」楽しさが加わった。これからのブリリアントアリーズの活躍に注目して、応援に行ってみよう!



幼少期にスポーツを「する」



ひらい しょうた 平井 翔大くん

上田レスリングスポーツ少年団
お父さんもレスリングの選手だったと
いう翔大くん。大きな夢に向かって練習に打ち込んでいる。

「スポーツ少年団に入ったきっかけ」

小学1年生の時に見学に来て、楽しそうだな、相手を投げられたら気持ちよさそうだなと思って入りました。

「レスリングの楽しいところ」

練習をするんだんだん強くなれるところや、できなかった技ができるようになることが楽しいです。あと、違う小学校の友達ができることがうれしいです。

「性格にも変化が」

スポーツ少年団に入る前は、ちょっと控えめな性格だったのですが、合同練習では自分で組み手の相手を見つけないと練習ができないので、そこで積極性が出たと思います。学校の授業でも積極的に手を上げるようになりました。

「将来の夢」

7年後に長野県で国体があって、その時は高校3年生なのでそこで優勝することが目標です。将来は、オリンピックでチャンピオンになりたいです。



①②③練習では、レスリングの動き以外にも全身を使ったさまざまな運動を行う ④練習後は道場に感謝し、みんなで雑巾がけ

市民のスポーツ活動を「ささえる」「つなぐ」



まるやま あつし 丸山 淳さん

上田市スポーツ推進委員会 広報部長

「活動への思い」

菅平に住んでいるのですが、菅平は夏も冬も、切磋琢磨しながら高みを目指してスポーツをする方がたくさん訪れます。私自身、スポーツは勝敗にこだわってするものというイメージを以前は持っていました。

そんな中、スポーツ推進委員の活動で「ニュースポーツ」に出会いました。ニュースポーツは、誰でもすぐに始められて、老若男女みんな楽しんでるスポーツで、スポーツ推進委員会では「ワンバウンドふらばるバレー」を広める活動

スポーツ推進委員は、市町村の教育委員会が委嘱する非常勤の公務員で、上田市には55名の委員がいます。スポーツ推進委員は、スポーツの指導をはじめ、上田古戦場ハーフマラソンなど市内のスポーツイベントの企画・運営のサポートをし、市民のスポーツ活動を縁の下で支える存在です。また、現在、上田市スポーツ推進委員会では、勝敗にこだわらず、レクリエーションとして誰でも簡単に取り組めるニュースポーツのうち、特に「ワンバウンドふらばるバレー」の普及活動に力を入れていて、教室や大会を開催しています。

に力を入れていきます。生涯にわたってスポーツに親しむことは健康増進につながったり、仲間との絆が深まります。何よりも「楽しい」ことがスポーツの最大の魅力です。市民の皆さんにスポーツを身近に感じてもらうよう、私たち委員は活動しています。

ボールの行方が予測できない?!

ワンバウンドふらばるバレー

ワンバウンドふらばるバレーは、軽くておむすび型の変形ボールを使ってバドミントンのコートを用いています。バレーボールとは違い3回で相手コートにボールを返さなければいけません、原則1回目は床にバウンドさせてからレシーブしなければいけません。ボールが丸くないため、バウンドの跳ね返りの方向が予測できないところが面白く、

いざ始めてみると奥が深いスポーツです。



動画でもご覧いただけます



年齢を重ねてもスポーツを「する」



あらかき ふみひこ 荒木 文彦さん

上田市総合型地域スポーツクラブ 連絡協議会会長

「学生時代からずっとスポーツに関わってきた」

私は動くことが大好きで、中学はバレーボール、高校でハンドボール、社会人になってからはハンドボールと並行してサッカーを始め、少年サッカーの指導もするようになりました。1978年に長野県で開催されたやまびこ国体には、ハンドボールの選手として出場しました。

今は定年をきつかけにみんなでワイワイ体を動かしたいと思い、バドミントンサークルに参加しています。サークルには、小学生から私のような70代まで幅広い年齢の方が参加していて、参加者のいるような趣味の話が聞けたり、気持ちが若返るようなエネルギーをもらっている気がします。

また、子どもたちに楽しく体を動かすことを知ってほしいと思い、総合型地域スポーツクラブのスタッフとして、保育園の運動指導にも携わっています。



取材に訪れた日は男の子とペアに。試合中も笑顔がこぼれる

「総合型地域スポーツクラブの役割」

競技スポーツとして勝敗があることもスポーツの大きな魅力ですが、それだけでなく幅広い年齢の方が交流しながらみんなで楽しめる運動の機会を提供していきたいと思っています。「勝ち負けより楽しもう」というのが一番の想いです。

スポーツができる環境を未来へ「つなぐ」

「上田市スポーツ振興計画」の基本目標のうち、「スポーツ施設の整備」については、平成30年度に策定した「上田市スポーツ施設整備計画」に具体的な計画をまとめています。この計画では、市内スポーツ施設の老朽化や全国大会等が開催できる大規模施設の不足といった課題の中、今後の人口減少も踏まえ、施設の集約化を図りながら将来にわたって市内でスポーツ活動が持続できるよう施設整備を行うこととしています。

今後、令和9年度に県内で開催される国体等の大規模な大会に向けた古戦場公園周辺へのテニスコートの整備や、老朽化に伴う各地域の体育館をはじめ、新体育館の建設やそのほかの体育施設の整備は、この計画に沿って進めていきます。



スポーツ施設整備計画の詳細はこちら



さあ、一緒にスポーツを楽しもう!

今回は、市内でスポーツに向き合い盛り上げる方たちのインタビューも交え、スポーツ観戦、競技力の向上を目指す「競技スポーツ」、年齢やライフスタイルに応じた「生涯スポーツ」など、スポーツのさまざまな魅力を紹介してきました。

スポーツには、「みる」「する」「ささえる」「つなぐ」ことで、人と感動を共有し、生きがいの創造につながる力があります。東京オリンピック・パラリンピックの開催でスポーツが引き続き注目される今年、あなたなりの楽しみ方を見つけてみてはいかがでしょうか。